

大会本番に向けた2019年夏の試行の結果（速報）及び 東京2020大会における首都高速道路の料金施策に関する方針（案） について

都及び組織委員会などは、東京2020大会時を見据え、スムーズビズ推進期間（7月22日（月）から9月6日（金））において、TDM、TSMなど交通対策の試行を行い、今般、チャレンジウィーク（7月22日（月）から26日（金））の結果について、速報としてとりまとめました。

その検証結果等を踏まえ、8月27日（火）に「東京2020大会における首都高速道路の料金施策に関する方針（案）」を公表いたしました。

1 大会本番に向けた2019年夏の試行の結果（速報）

（1）試行の概要

- ・大会本番並みの目標を掲げ、交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストする期間を設定
- ・オリンピック・パラリンピックの期間に相当する期間を集中取組期間とし、企業等に重点的な取組を依頼
- ・各社取組のピークを合わせるチャレンジウィークにおける、交通に関する効果測定を実施
- ・TSMは大会時と同等規模で試行（7月24日（水）、26日（金））

（2）得られた知見と今後の対応

＜得られた知見＞

①交通需要マネジメント（TDM）

- ・道路交通は一定程度減少。一方、首都高速道路の交通量は一般道と比較して減りづらい傾向。目標達成に向けて更なる交通量減少が必要
- ・鉄道もピーク時を中心に利用者が減少
- ・「取組を知らなかった」「もっと周知してほしい」との意見あり。
- ・今後、大会までに取り組む意向を持つ事業者が多く存在
- ・物流対策は、多くは自社・顧客への影響の把握を行っている段階

②交通システムマネジメント（TSM）

- ・交通規制により、大会輸送の円滑性を一定程度確保可能
- ・レーン数を制限した高速料金所や入口閉鎖、都心への流入制限を行った一般道では渋滞が発生
- ・TSMを機能させるには十分な交通量低減が必要
- ・利用可能な入口、う回ルート等の周知を望むユーザーが多い。

＜今後の対応＞

①交通需要マネジメント（TDM）

- ・入念な事前準備による更なる交通量低減
- ・スムーズビズの戦略的な広報の拡充
- ・観客の分散などの施策の実施（鉄道）
- ・顧客との物流に関わる調整の促進

②交通システムマネジメント（TSM）

- ・高速料金所の閉鎖時間の短縮など運用の最適化
- ・規制に関する情報提供の充実

③追加対策

- ・大会時の需要増、高強度のTSMを長期に実施した場合の経済活動への影響に対する懸念等を踏まえ、首都高速道路の流動確保のための対応が必要

2 東京2020大会における首都高速道路の料金施策に関する方針（案）の概要

（1）適用期間

令和2年7月20日（月）から8月10日（月・祝）まで
令和2年8月25日（火）から9月6日（日）まで

（2）実施内容

＜ETC搭載車両＞

夜間割引（全車種、首都高全線、5割引）

料金上乘せ（マイカー等、都内区間、1,000円）

※他の交通への転換が困難な公共交通、物流車両などは対象外

（中型車以上の車両、営業用の緑ナンバー車両、小型貨物車両、福祉車両）

＜現金車両＞

夜間割引なし

料金上乘せ（普通車以下の全て、首都高全線、1,000円）

（3）意見募集

令和元年8月27日（火）から9月26日（木）まで、「東京2020大会における首都高速道路の料金施策に関する方針（案）」に関する意見を募集

3 今後のスケジュール

- ・本年10月下旬頃を目途に、今夏の試行の検証結果をとりまとめ
- ・「東京2020大会における首都高速道路の料金施策に関する方針（案）」に関する意見募集の結果等を踏まえ方針を策定。その後、首都高速道路からの同意申請を受け、議案を提出予定
- ・本年12月策定予定の輸送運営計画V2に反映

< 参考資料 >

○東京 2 0 2 0 オリンピック・パラリンピック 競技大会 輸送

連絡調整会議（令和元年 8 月 2 7 日開催）資料 抜粋

- ・資料 2－1 試行の内容
- ・資料 2－2 試行の検証について

○「東京 2 0 2 0 大会における首都高速道路の料金施策に関

する方針（案）」 公表資料

試行の内容

1. 試行の概要

＜試行の主な内容＞

T D Mに関する試行

企業等への働きかけ
(東京圏、重点取組地区、特定エリア等)

政府・都庁の取組 等

T S Mに関する試行

高速道路の本線料金所流入調整、
入口閉鎖

一般道路の交通対策（信号調整）

- 大会本番並みの目標を掲げ、交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストする期間を設定

○道路交通 ・ 一般交通

東京圏の広域における一般交通について、大会前の交通量の一律10%減を目指す。
特に重点取組地区については、出入りする交通量の30%減を目指す。

・ 首都高速道路における交通量の更なる減

首都高速道路については、交通量を最大30%減とすることで、休日並みの良好な交通環境を目指す。

- オリンピック・パラリンピックの期間に相当する期間を集中取組期間とし、企業等に重点的な取組を依頼
- 各社取組のピークを合わせるチャレンジウィーク及びコア日を中心に、効果測定を実施
- TSMは大会時と同等規模で数日試行する他、選手村～競技会場間でバスを実走

2019年カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/14	15	試行期間(スムーズBiz推進期間)				20
21		チャレンジウィーク(7/22~26)、コア日(7/24)				27
28		集中取組期間①(7/22~8/2)				3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18		集中取組期間②(8/19~8/30)				24
25						31
9/1	2	3	4	5	6	7

2. チャレンジウィークの取組

	TDM	TSM
7月22日(月)	企業等による交通混雑緩和の取組 (各社の取組のピーク)	—
23日(火)	企業等による交通混雑緩和の取組 (各社の取組のピーク)	—
<TDM取組のコア日、 オリンピック開会式1年前> ※ 24日(水)	・企業等による交通混雑緩和の取組 (各社の取組のピーク) ・スムーズビズ(コア日) ・テレワークデイズ2019(コア日) ・国の取組	【高速】 ・本線料金所での流入調整 ・入口閉鎖による本線流入調整 【一般道】 ・環七内側への流入抑制(信号調整)
25日(木)	企業等による交通混雑緩和の取組 (各社の取組のピーク)	—
<チャレンジウィーク期間中に 交通量が多いと予想される日> ※ 26日(金)	企業等による交通混雑緩和の取組 (各社の取組のピーク)	【高速】 ・本線料金所での流入調整 ・入口閉鎖による本線流入調整 【一般道】 ・環七内側への流入抑制(信号調整)
備考	・都庁及び国の取組を含む日 ・集中取組期間 ① 7月22日～8月2日 ② 8月19日～8月30日	

※ 24日(水)、26日(金)にはTDMとTSMを同時に実施

3. TDMの試行内容

- スムーズBiz参加企業や、関連する取組（テレワークデイズ2019等）への参加企業に対し、試行実施を呼びかけた

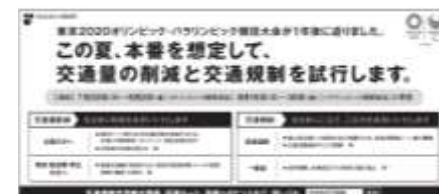
働きかけの手段	内容
①メールマガジン	・ 2020 T D M推進プロジェクトの登録企業（約1,600社・事業所：6/14現在）に定期的にメルマガを配信
②説明会	・ 全体説明会、地区別説明会、出張説明会（要請に応じて実施：東商支部や各協会等）
③PRチラシ 試行前アンケート票	・ 経済団体・業界団体を通じ、企業に配布 ・ 重点取組16地区でのポスティング
④イベント	・ スムーズBizキックオフイベント（5 / 2 9） ・ テレワーク・デイズ2019&スムーズBiz推進期間プレイベント（7 / 1）
⑤広報 （動画、ポスター等）	・ 動画 トレインビジョン、T V C M、デジタルサイネージ（主要ターミナル駅）等 ・ ポスター 2020 T D M推進プロジェクト協力者、国、自治体、首都高、鉄道事業者等に配布 ・ 電車中吊り広告

4. チャレンジウィークの広報実施状況

- テレビ CM(政府広報)
- ラジオ 道路交通情報(JARTIC)
都民ニュース
- Web Yahoo! ニュースバナー(政府広報)
夏の試行専用ページ
道路交通情報(JARTIC)
- デジタルサイネージ
- 新聞広告(政府広報)
- ポスター、チラシ
- トレインビジョン
- 道路情報板
- 看板
- 横断幕



テレビCM (政府広報)



新聞広告 (政府広報)



デジタルサイネージ



ポスター・チラシ



トレインビジョン



道路情報板



看板



横断幕

5. T S Mの実施状況

【高速道路】

<実施内容>

■終日実施（0時～24時）

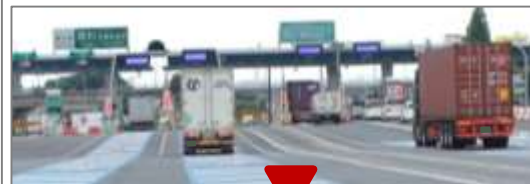
- ・本線料金所流入調整 : 11箇所
- ・入口閉鎖 : 4箇所

■交通状況に応じて実施

- ・入口閉鎖※ : 35箇所(24日), 33箇所(26日)
- ・本線車線規制 : 2箇所(24日), 2箇所(26日)

※最大の同時閉鎖箇所

< T S M実施状況（高速道路） >



本線料金所流入調整（東北道 浦和本線料金所）



入口閉鎖（首都高 三軒茶屋入口）

【7/24(水)TSM実施箇所】



【7/26(金)TSM実施箇所】



【凡例】 — ORN（大会ルート）

○ 本線料金所（流入調整実施）

◀ 終日閉鎖入口

◀ 閉鎖入口（追加）

■ 本線車線規制

5. T S Mの実施状況

【一般道】

＜実施内容＞

■午前中実施（5時～12時）

- ・環状七号線内側への流入調整　： 118箇所
 - 環状七号線の内側へ直進する交通に対する青信号の時間を通常よりも短くすることで、都心への流入交通を調整
 - 信号の調整率は、通常時から▲5%～10%程度

一般道での対策イメージ



＜T S M実施状況（一般道）＞



環状七号線外側（国道246号 上馬交差点付近）



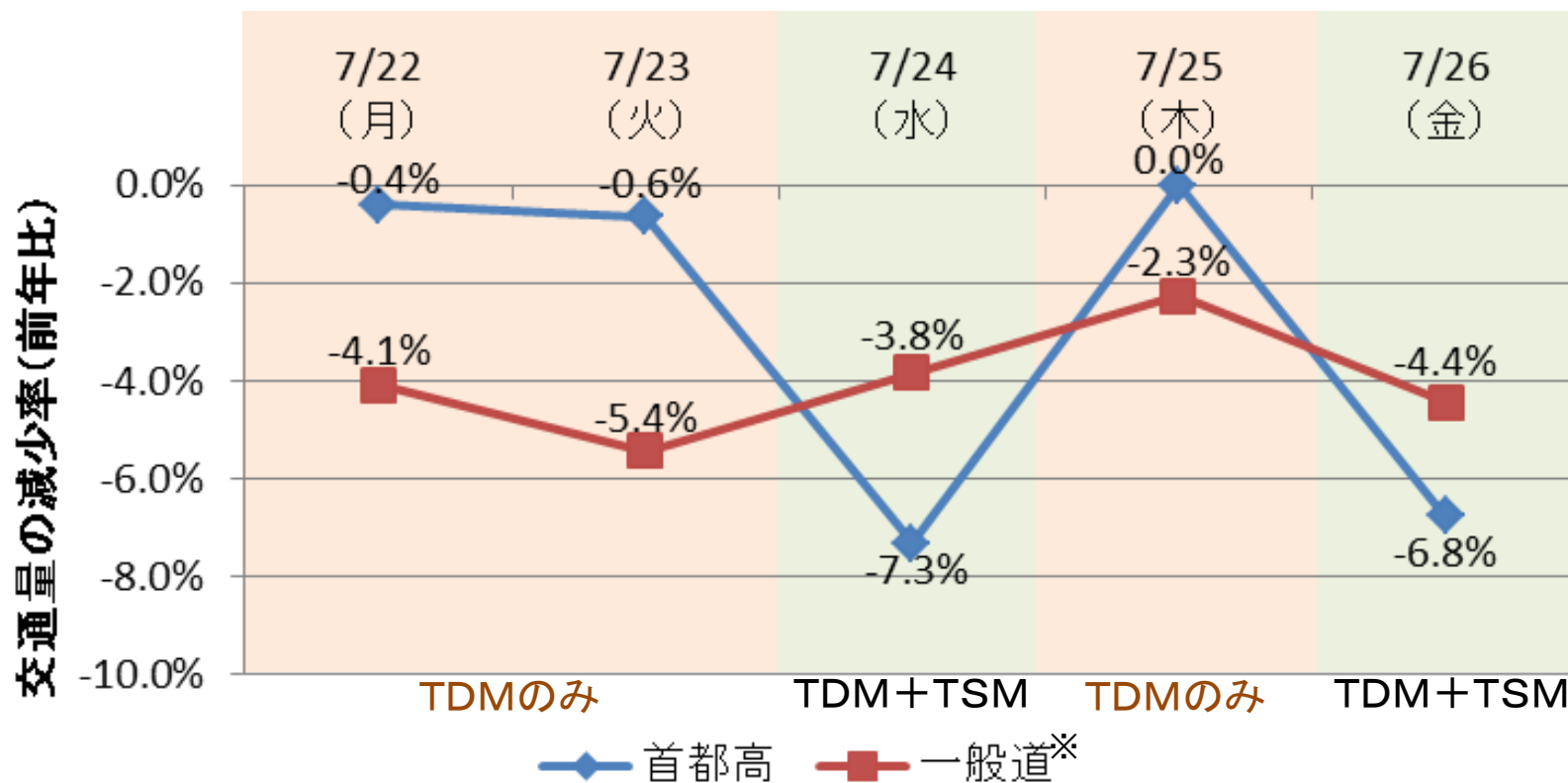
入口閉鎖（国道246号 三軒茶屋入口周辺）

試行の検証について

道路交通

1. チャレンジウィーク期間中の交通量(前年同月同週同曜日の比較)

- ・TDMの効果 : 首都高約0.4%減、一般道約4%減
- ・TDM+TSMの効果: 首都高約7%減、一般道約4%減



※国道1号、4号、6号、14号、15号、17号、20号、246号、254号の15地点の断面交通量の合計

《参考:首都高の通行台数(2018年) 7月平日平均:110.1万台/日, 大会同時期最大:117.7万台/日》

2. TSMによるオリンピック・ルート・ネットワークの交通円滑化効果

・選手等が通行するルートについて、前年と比較して円滑な交通流動を確保可能

2018/7/25(水)8:00 [前年同曜日]



2019/7/24(水)8:00 [TDM+TSM]



本線料金所（流入調整） 1 1箇所
入口閉鎖 計 3 1箇所
晴海、外苑（上、下）、新都心の4箇所
2 7箇所追加

2. TSMによるオリンピック・ルート・ネットワークの交通円滑化効果

・選手等が通行するルートについて、前年と比較して円滑な交通流動を確保可能

2018/7/25(水)17:00 [前年同曜日]



2019/7/24(水)17:00 [TDM+TSM]



本線料金所（流入調整） 1 1箇所
 入口閉鎖 計 3 6箇所
 晴海、外苑（上、下）、新都心の4箇所
 3 2箇所追加

2. TSMによるオリンピック・ルート・ネットワークの交通円滑化効果

・選手等が通行するルートについて、前年と比較して円滑な交通流動を確保可能

2018/7/27(金)8:00 [前年同曜日]



2019/7/26(金)8:00 [TDM+TSM]



本線料金所（流入調整） 1 1箇所
入口閉鎖 計 3 1箇所
晴海、外苑（上、下）、新都心の4箇所
2 7箇所追加

2. TSMによるオリンピック・ルート・ネットワークの交通円滑化効果

・選手等が通行するルートについて、前年と比較して円滑な交通流動を確保可能

2018/7/27(金)17:00 [前年同曜日]



2019/7/26(金)17:00 [TDM+TSM]



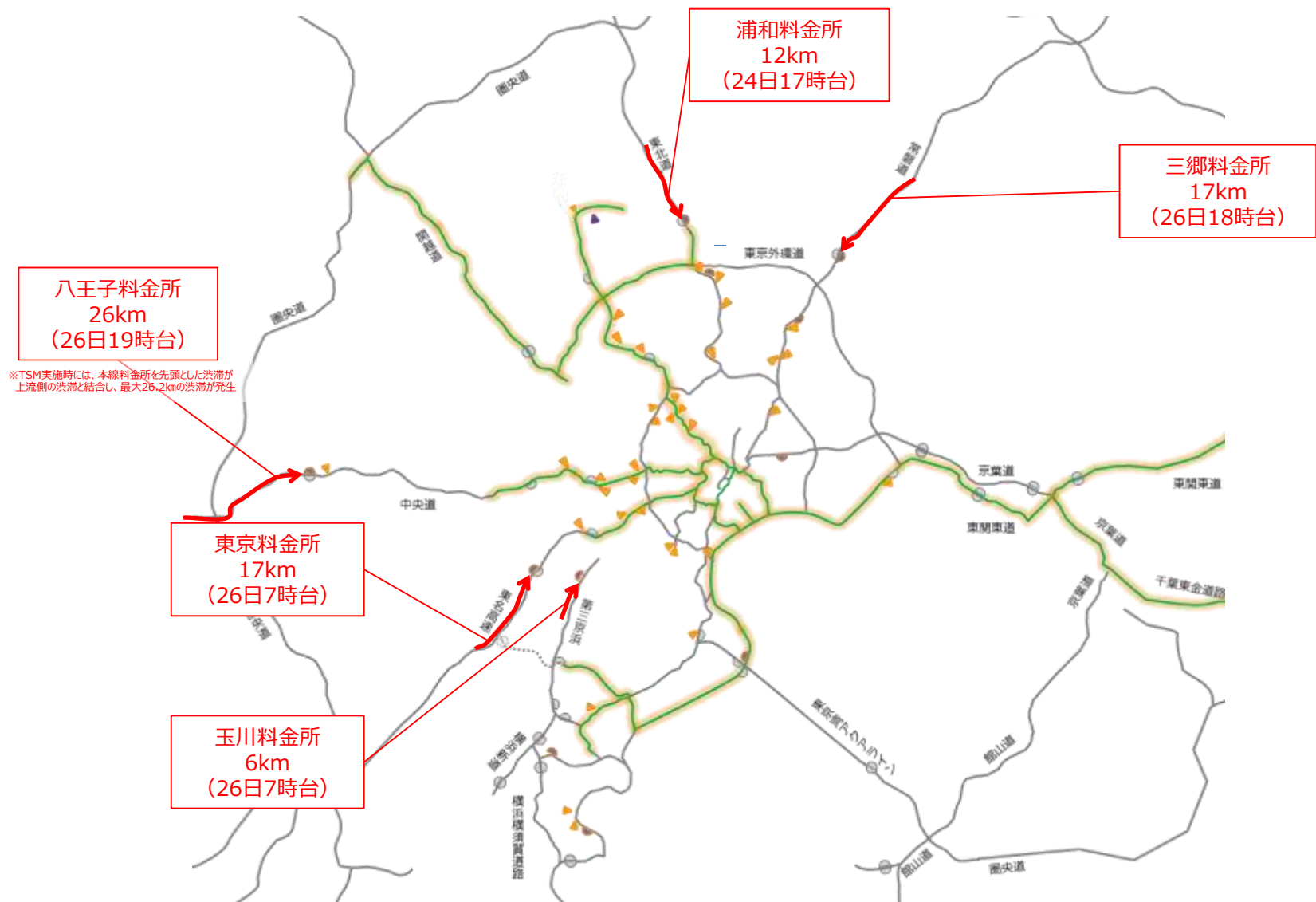
本線料金所（流入調整） 1 1箇所
入口閉鎖 計 3 2箇所
晴海、外苑（上、下）、新都心の4箇所
2 8箇所追加

3. TSMによる影響(高速道路本線料金所での渋滞)

- ・料金所を先頭とする延長5km以上の渋滞が複数の箇所が発生

2019/7/24(水)・26(金)[TDM+TSM]の最大渋滞長※(最大5km以上の箇所)

※40km/h以下の区間の延長(料金所からの延長)



4. TSMによる影響(一般道での渋滞)

- ・国道246号等、放射状路線において通常時を上回る渋滞が発生

2018/7/25(水)8:00 [前年同曜日]



2019/7/24(水)8:00 [TDM+TSM]

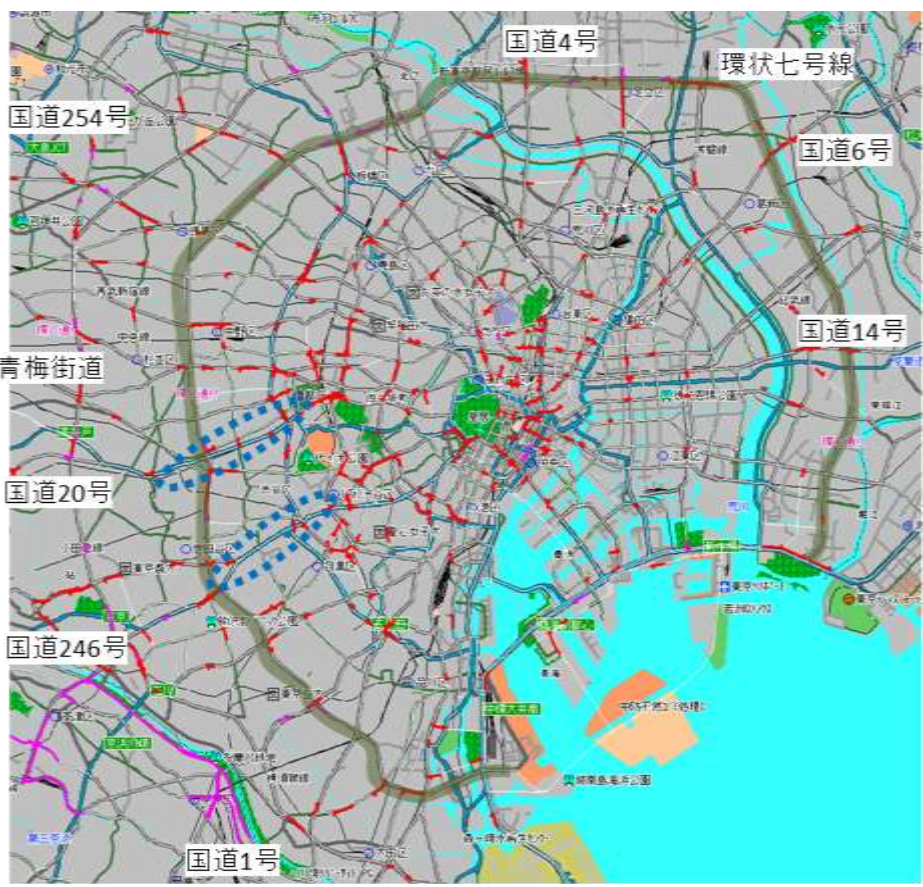


出典: 警視庁資料

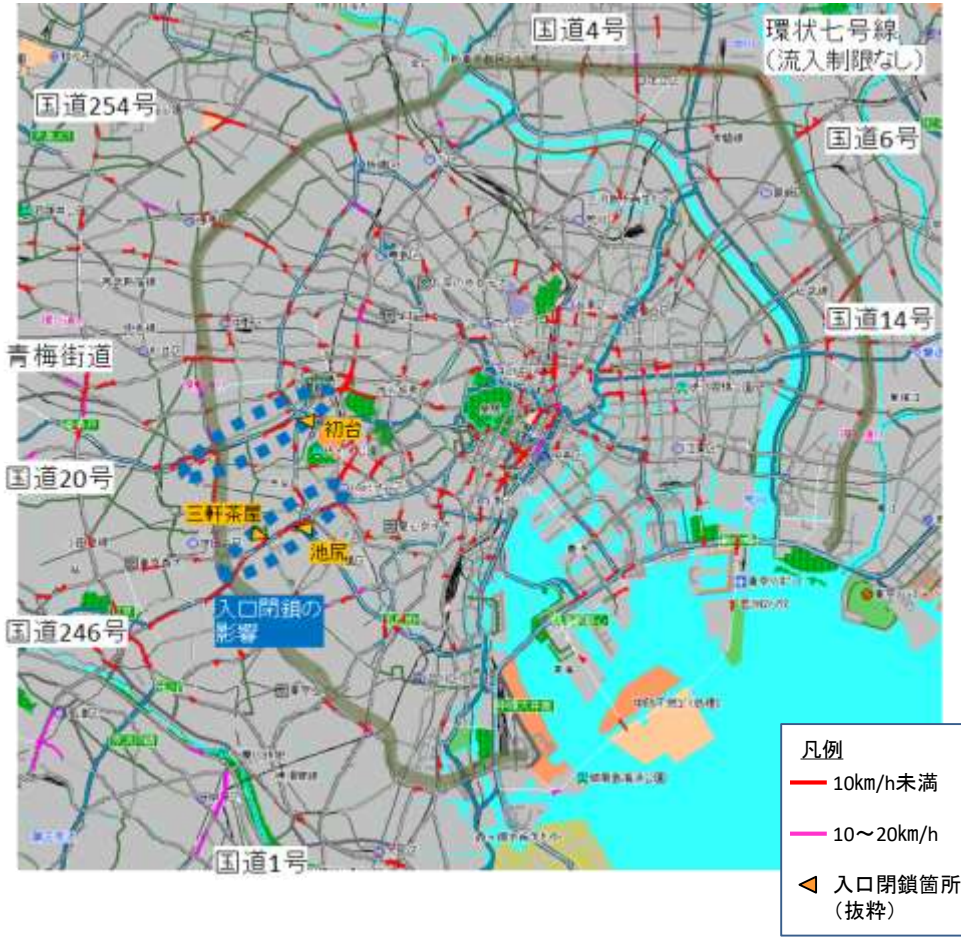
4. TSMによる影響(一般道での渋滞)

- ・国道246号等、放射状路線において通常時を上回る渋滞が発生

2018/7/25(水)17:00 [前年同曜日]



2019/7/24(水)17:00 [TDM+TSM]



出典:警視庁資料

4. TSMによる影響(一般道での渋滞)

- ・国道246号等、放射状路線において通常時を上回る渋滞が発生

2018/7/27(金)8:00 [前年同曜日]



2019/7/26(金)8:00 [TDM+TSM]



出典: 警視庁資料

4. TSMによる影響(一般道での渋滞)

・国道246号等、放射状路線において通常時を上回る渋滞が発生

2018/7/27(金)17:00 [前年同曜日]



2019/7/26(金)17:00 [TDM+TSM]

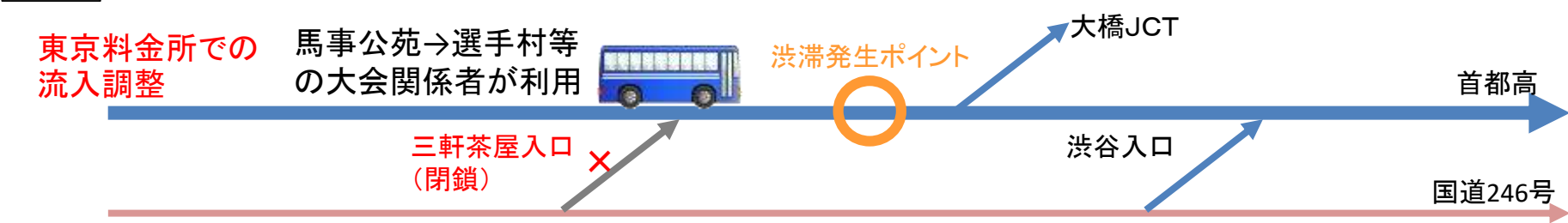


出典:警視庁資料

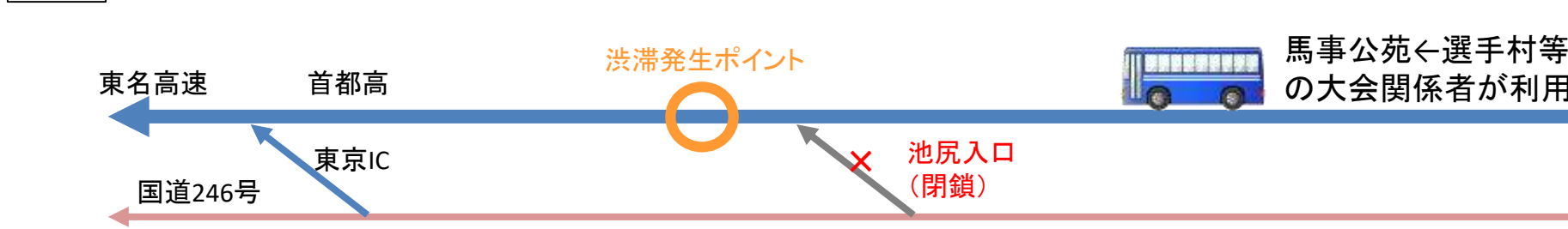
4. TSMによる影響（一般道での渋滞）

【首都高の流入制限の狙い】

上り 大橋JCT手前の渋滞発生ポイントの交通量を減らすことで首都高の流れを確保



下り 池尻入口直後の渋滞発生ポイントの交通量を減らすことで首都高の流れを確保



【流入制限による一般道での状況変化】

閉鎖した入口から首都高に流入できない車両が一般道を走行⇒渋滞が発生

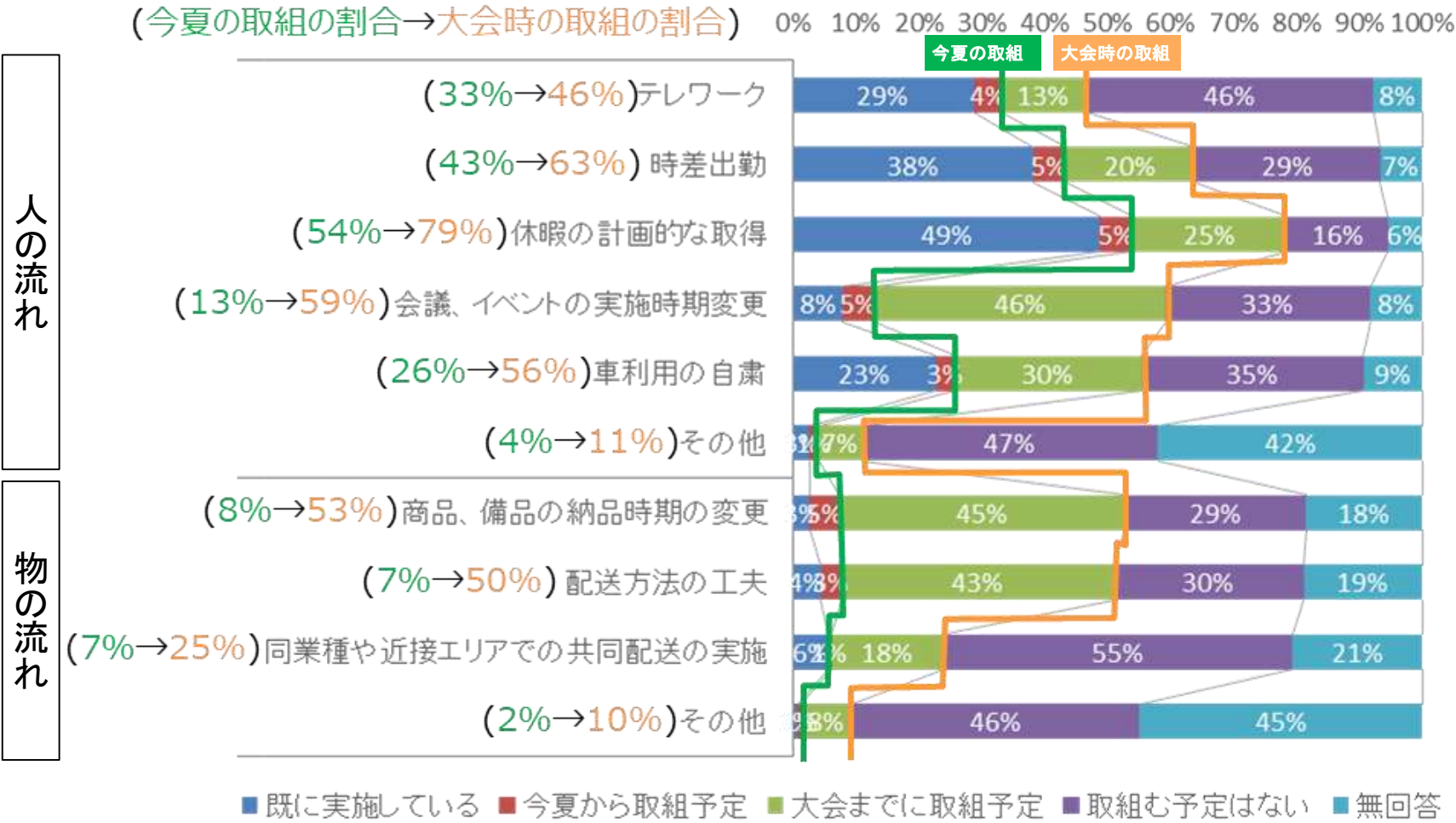
【改善方策(例)】

渋滞発生要因 上り三軒茶屋～渋谷入口、 下り池尻入口～東京ICの利用増	改善方策(例) ①TDMによる交通量の低減 ②荷捌き時間の変更、路上駐車抑制の呼びかけ 等
--	--

5. 企業等の取組意向

- ・ 来年の大会時に向け、各方策に取り組む企業の割合は増加
⇒TDM効果は今夏の試行時よりも高まる見込み

企業向け事前アンケート(2019年6月24日(月)～7月26日(金))



6. 道路の交通量低減についての課題

- 今回の試行で、道路交通は一定程度減少
(一般道で約4%減少である一方、首都高では、TDMのみの日では前年同日に比べ約0.4%と減少幅が小さい)

(参考)大会本番時の目標

- ・ 一般交通

東京圏の広域における一般交通について、大会前の交通量の一律10%減を目指す。特に重点取組地区については、出入りする交通量の30%減を目指す。

- ・ 首都高速道路における交通量の更なる減

東京圏のオリンピック・ルート・ネットワーク(ORN)の基幹をなす首都高速道路については、交通量を最大30%減とすることで、休日並みの良好な交通環境を目指す。

(TDM及び追加対策等により実現)

- TSMを効果的に機能させるには十分な交通量低減が不可欠



- 本番の大会期間中は、大会関係車両、観客の滞在等による波及交通で更に首都高に約7万台/日の交通が増加する見込み
- 今回のように高強度なTSMを長期にわたり実施した場合には、物流や公共交通等の首都高の利用に支障が生じ、経済活動や都市活動に影響が及ぶことを懸念

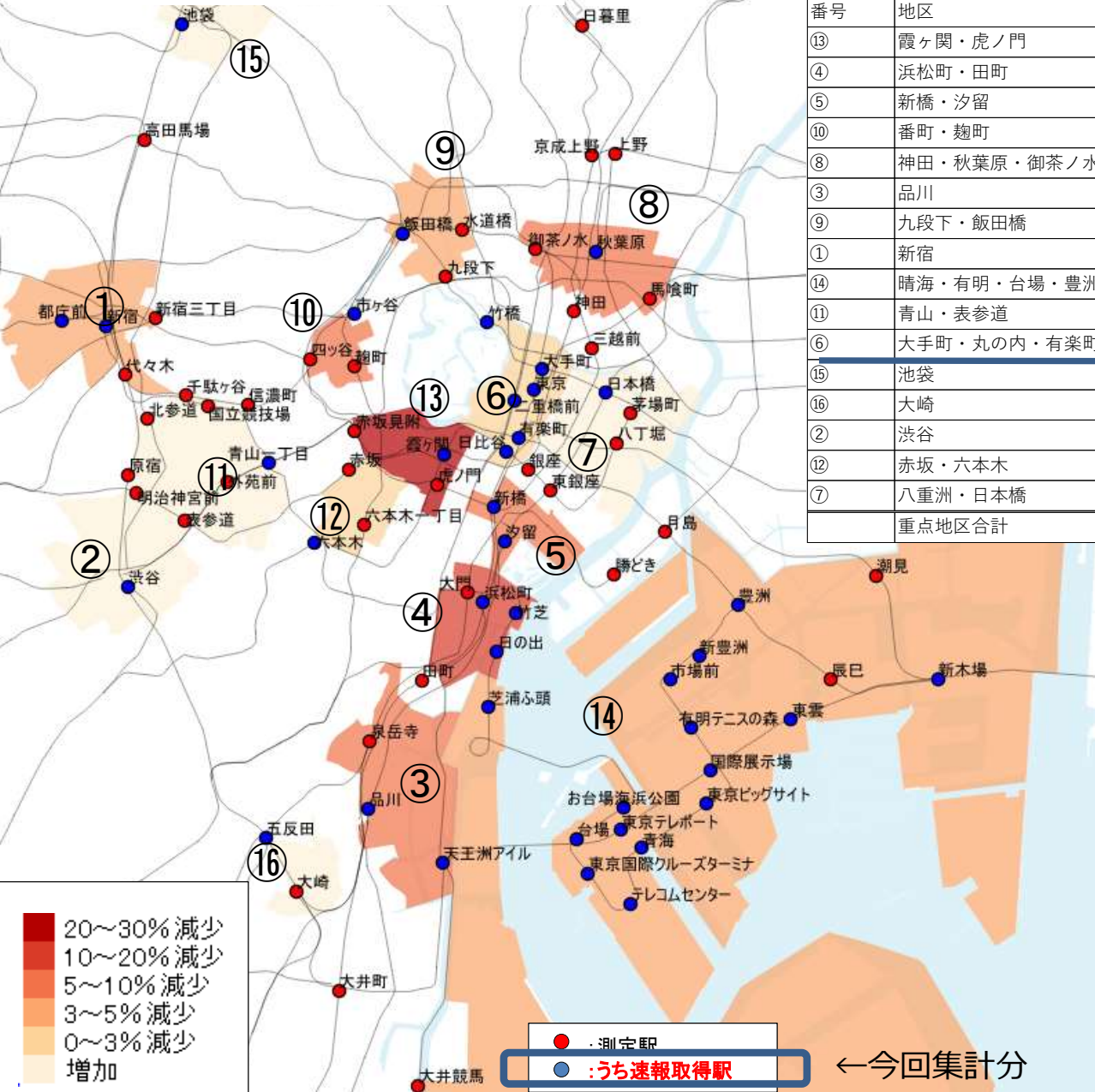


TDMによる更なる交通量低減と、追加対策の実施が必要

公共交通(鉄道)関連

7. TDMの取組(速報)

重点取組地区(16地区) 地区別



* 前年同曜日(2019年7月24日(水)と2018年7月25日(水))の比較

○ピーク1時間(8時台)にエリアの駅に到着する人の数の変化

注) 年毎の利用者数の変化は踏まえていない

番号	地区	減少率	注
13	霞ヶ関・虎ノ門	約22%減	
4	浜松町・田町	約12%減	
5	新橋・汐留	約7%減	
10	番町・麴町	約6%減	
8	神田・秋葉原・御茶ノ水	約6%減	
3	品川	約6%減	
9	九段下・飯田橋	約5%減	
1	新宿	約5%減	
14	晴海・有明・台場・豊洲・大井ふ頭	約4%減	
11	青山・表参道	約2%減	※9時台
6	大手町・丸の内・有楽町	約2%減	
15	池袋	0.2%増	
16	大崎	0.4%増	
2	渋谷	約1%増	
12	赤坂・六本木	約1%増	※9時台
7	八重洲・日本橋	約6%増	
	重点地区合計	約3%減	

【TDMによる効果が大きかった駅の例】

鉄道駅	対前年比 駅出場者 変化率
霞ヶ関	約22%減
浜松町	約12%減
都庁前	約12%減
豊洲	約10%減

中央省庁(霞ヶ関駅)や都庁(都庁前駅)、民間企業(その他)などにより、TDMの取組等を実施した効果

←今回集計分

7. TDMの取組(速報)

* 前年同曜日 (2019年7月24日(水)と2018年7月25日(水)) の比較

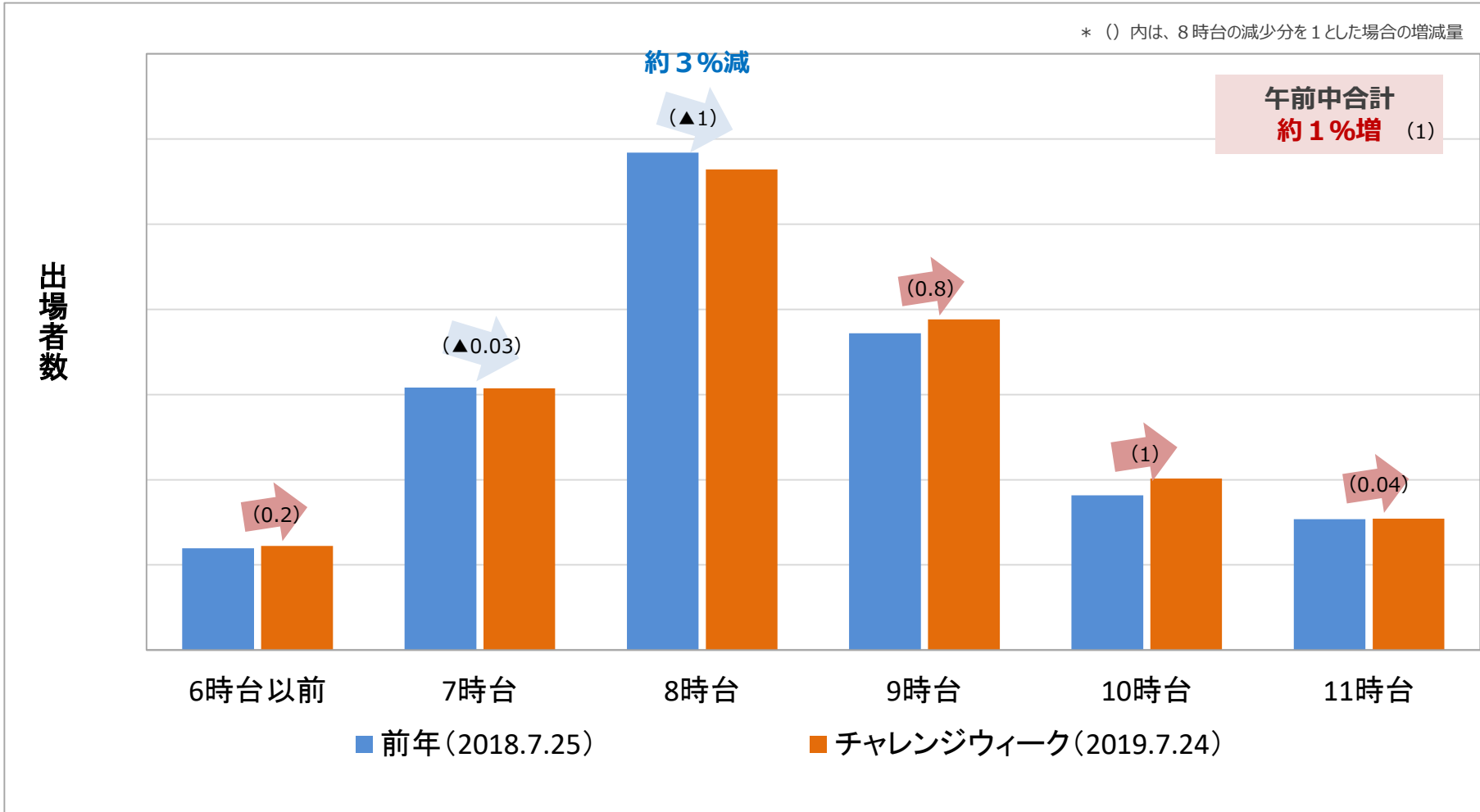
重点取組地区 (16か所) 合計

速報値調査対象 全75駅

注) 年毎の利用者数の変化は踏まえていない

- ・ピーク時間帯(8時台) 約3%減、 7時台・8時台からその周辺の時間帯に分散
- ・午前中の利用者数 約1%増

駅出場者数の変化 (重点取組地区 16 地区の速報値調査対象駅の合計)



得られた知見と今後の展開

大会時に考慮すべき要素

一般交通

需要増

- ・大会期間中の最大交通量
- ・大会関係者、観客、物流

交通量減少の継続

- ・オリ19日間、パラ13日間
等

事故等への対応

交通マネジメントの枠組み

TDM

TSM

追加対策

(首都高の流動確保策)

☐ チャレンジウィーク中に発現・実施したもの

結果・得られた知見

【TDM(道路・鉄道)】

①道路交通、鉄道交通ともに減少

- ・道路交通は一定程度減少。一方、首都高の交通量は一般道と比較して減りづらい傾向。目標達成に向けては更なる交通量減少が必要
- ・鉄道もピーク時を中心に利用者が減少
- ・「取組を知らなかった」「もっと周知してほしい」との意見あり

②大会本番に向け、更に多くの企業・個人の取組が必要

- ・今後、大会までに取り組む意向をもつ事業者が多く存在
- ・物流対策は、多くは自社・顧客への影響の把握を行っている段階

【TSM】

①交通規制により、大会輸送の円滑性を一定程度確保可能

②レーン数を制限した高速料金所や入口閉鎖、都心への流入制限を行った一般道で渋滞が発生

③TSMを機能させるには十分な交通量低減が必要

④利用可能な入口、う回ルート等の周知を望むユーザーが多い

今後の展開

【TDM(道路・鉄道)】

- ◆入念な事前準備による更なる交通量低減
- ◆スムーズビズの戦略的な広報の拡充
- ◆観客の分散などの施策の実施(鉄道)
- ◆顧客との物流に関わる調整の促進 等

【TSM】

- ◆運用の最適化
- ◆規制に関する情報提供の充実 等

【追加対策】

- ◆需要増、今回と比べ長期間を見据え、首都高の流動確保のための対応が必要



令和元年 8 月 27 日
オリンピック・パラリンピック準備局
都 市 整 備 局

「東京 2020 大会における首都高速道路の料金施策に関する方針(案)」 の公表及びご意見を募集します

都は、「東京 2020 大会における首都高速道路の料金施策に関する方針(案)」をとりまとめ、本案について広くご意見を伺うこととしましたので、お知らせします。

本年 2 月に東京都と（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、大会時の首都高速道路の流動確保策について国などへ検討を依頼しました。

本案は、8 月 26 日に国などから示された検討結果をもとに、学識経験者等からなる交通輸送技術検討会での議論を踏まえ、東京都と組織委員会がとりまとめたものです。

詳しくは、別紙をご覧ください。

1 料金施策（案）の概要

(1) 適用期間 令和 2 年 7 月 20 日（月）から 8 月 10 日（月・祝）まで
令和 2 年 8 月 25 日（火）から 9 月 6 日（日）まで

(2) 実施内容 《ETC 搭載車両》

夜間割引（全車種、首都高全線、5 割引）

料金上乘せ（マイカー等、都内区間、1000 円）

《現金車両》

夜間割引なし

料金上乘せ（普通車以下の全て、首都高全線、1000 円）

2 意見募集の概要

(1) 募集期間 令和元年 8 月 27 日（火）から 9 月 26 日（木）まで

(2) 募集内容 「東京 2020 大会における首都高速道路の料金施策に関する方針(案)」に関するご意見

(3) ご意見の提出方法（別添 1 及び 2 参照）

郵便：〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

東京都オリンピック・パラリンピック準備局大会施設部輸送課 宛



F A X : 03-5388-1227

メー ル : S1050504@section.metro.tokyo.jp

3 閲覧方法

オリンピック・パラリンピック準備局のホームページほか、都民情報ルーム（都庁第一本庁舎3階北側、平日9:00～18:15）で御覧になれます。

【オリンピック・パラリンピック準備局ホームページURL】

(<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaijyunbi/torikumi/yusou/index.html>)

＜問合せ先＞

【料金施策（案）について】

オリンピック・パラリンピック準備局大会施設部輸送課 直通03-6634-5326

【高速道路について】

都市整備局都市基盤部街路計画課 直通03-5388-3323

東京 2020 大会における首都高速道路の料金施策に関する方針(案)

1 検討経緯

これまで東京都・組織委員会・国は、大会期間中の円滑な大会輸送と経済活動・市民生活の両立を図るため、様々な交通対策の検討を進めてきました。

具体的には、多くの企業・市民の皆様から少しずつご協力を頂き、全体の交通量を低減する交通需要マネジメント（TDM）、高速道路での流入調整などを行う交通システムマネジメント（TSM）、時差出勤などピークシフトなどを行う公共交通輸送マネジメントです。

こうした検討を進める中で、大会関係車両が多く通行する首都高速道路での流動を確保する上で、以下の課題があることが明らかになりました

（参考 第4回交通輸送技術検討会〔平成31年2月6日〕 資料2・3）

- 1) TDM のみでは首都高の交通量が減りにくい傾向にあること
- 2) 大会期間中は、大会関係車両の通行、物流車両など派生需要の増加など、例年同時期の交通量よりも多くの交通が見込まれること
- 3) TDM による交通量の低減効果を、オリンピック・パラリンピック期間（約30日間）を通じて継続させる必要があること

このことから、本年2月、学識経験者を交えた交通輸送技術検討会において、検討中の TDM、TSM に加えて、更なる追加対策の検討の必要性が確認され、東京都と組織委員会から国等に対し、検討の協力を要請しました。

その後、本年7月には、一般交通を対象に TDM、TSM の交通対策の試行を実施し、その検証結果として以下の事項をとりまとめました。

（参考 第6回交通輸送技術検討会〔令和元年8月26日〕 資料2－2）

- 1) 今回の試行で、道路交通は一定程度減少
（一般道で約4%減少である一方、首都高では、TDM のみの日では前年同日に比べ約0.4%と減少幅が小さい）
- 2) TSM を効果的に機能させるためには十分な交通量低減が不可欠
- 3) 大会期間中は、大会関係車両、波及交通などが増加する見込み
- 4) 高強度の TSM を長期に実施した場合の経済活動や都市活動に対する影響が懸念
- 5) これらのことを考慮すると、大会本番に向けては TDM による更なる交通量の低減と、追加対策の実施が必要

こうした検証のもとに、国から首都高速道路での追加対策について、検討結果が示されました。（参考 第6回交通輸送技術検討会 資料3-1）

国の検討結果では、ナンバープレート規制及びHOVレーンについては、首都高の構造的な問題（片側2車線など）等が存在するとされ、料金施策については、既存のETCシステムの活用が可能でTDMやTSMと組み合わせることを前提に、夜間割引を導入した上で、料金上乗せ額についての3パターンが示されました。

これをもとに、交通輸送技術検討会での議論をふまえ、都と組織委員会で本方針（案）をとりまとめました。

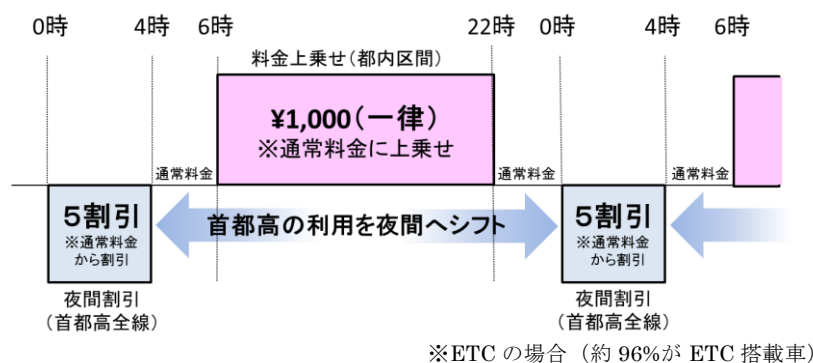
2 料金施策の内容

交通輸送技術検討会による以下の3点の意見「①首都高速道路の流動を確保する効果、②TSMなど交通規制を行う強度と影響、③一般道での交通渋滞の発生などの影響」を受け、料金上乗せによる経済的負担の度合いの観点などを考慮した上で、夜間半額割引を導入するとともに、料金上乗せ額を1000円と設定しました。

《ETC搭載車両》

夜間割引（全車種、首都高全線、5割引）

料金上乗せ（マイカー等、都内区間、1000円）



※ETCの場合（約96%がETC搭載車）

《現金車両》

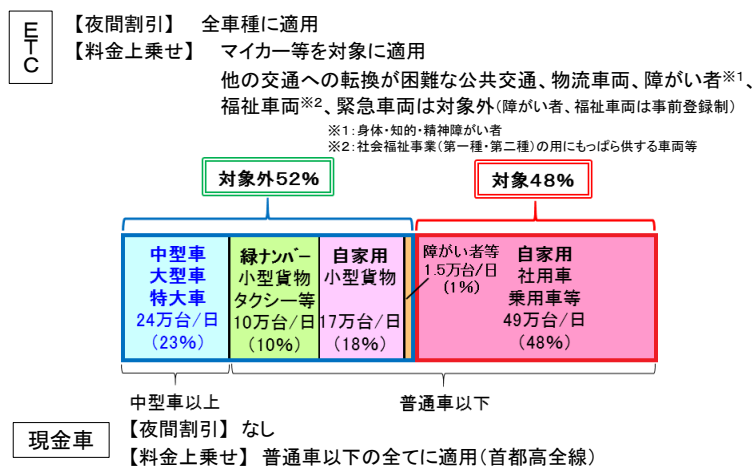
夜間割引なし

料金上乗せ（普通車以下の全て、首都高全線、1000円）

・対象車種

料金上乘せについては、経済活動・都市活動を維持する観点から、以下のとおり、対象外車種を設けています。

なお、夜間割引については、混雑時間のさらなる分散を図る観点から全車種を対象としました（現金車を除く）。



・適用期間

オリンピック大会、パラリンピック大会ともに、開会式から閉会式までの期間に適用することとしました。

加えて、オリンピック開会式前において、一部競技の実施、練習会場との往復、諸行事の開催などにより交通量の増が見込まれるため、開会式に先立つ4日間（7/20～23）も適用することとしました。

また、オリンピックの選手、関係者の出国は閉会式翌日がピークであり、迅速に輸送する必要があることから、定時性が求められる閉会式翌日（8/10）にも適用することとしました。

2020（令和2）年7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

適用日

2020（令和2）年8、9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
オリ閉会式	選手等の帰国ピーク					
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	9/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
パラ開会式						

3 料金施策を含めた交通対策の考え方

大会期間中の円滑な大会輸送の実現と、経済活動・都市活動の維持との両立を図るため、TDM、TSM、料金施策を下記の考え方をもとに運用します。

- ① TDM で物流車両も含めた道路交通全体の需要を削減
- ② 夜間割引の導入による交通シフトを促進
- ③ 昼間時間帯において、一般道から首都高への転換を抑制するためのマイカ一等に対する料金上乘せ
- ④ 交通状況に合わせた TSM の実施

料金上乘せ範囲(ETC搭載車)

参考

